



体のぶつかり合いを経て 子どもの健全育成を

そうした歴史を肌で感じながら、心身を鍛錬できる空手。子どもたち

大久保代表の攻究会文武錬成館は、このうち「剛柔流」に属する道場。それぞれの流派に特徴があります。大久保代表は「いろんな考え方の空手があります。いずれもそれぞれの先達が必死に考えた結果だと受け止めています」と、他流派の成り立ちや歴史などにも敬意を払っています。

琉球王国が源流 さまざまな流派が存在

そもそも空手は、どのような武道なのでしょう。発祥の起源は不明で諸説ありますが、琉球王国（現在の沖縄）で成立した武道。沖縄固有の拳法「手（ティー）」に中国武術の要素が加わり、現在の形に至ったとの説が一般的だそうです。

現在ではさまざまな流派が存在していますが、大きくは「4大流派」に分類されます。正統派空手とうたわれて80年以上の歴史がある「松濤館流」、空手道三大系統の一つ・那覇手を元に編み出された「剛柔流」、那覇手に首里手を融合させた「糸東流」、そして柔術と融合させた「和道流」です。

「争う」のは良くないけれども、クリンに公平に『競う』のは良いこと。その中で痛みを知り、相手の立場になって考えられる人間になってほしいですね。いくら科学が進歩して技術が発達したとしても、人間は肉体という器に縛られざるを得ない存在です。ならば原初の「ぶつかり合い」を経験して、人生を豊かに彩るのもまた一つの選択肢なのかもしれません。

を対象にしたこの道場では、細心の注意を払いつつ空手に向き合うことができるようにしています。「子どもたちの発達や発育に応じて練習の強度やメニューを変え、危なくないよう気を配っています」と大久保代表は話します。

ましてや現代社会は、人と人の接点希薄になりがち。その中で空手はまさに、体が触れ合うものです。「人のコミュニケーションを取る機会が減って体がぶつかり合う機会も少ないですが、空手は肉体が当たり、ぶつかります。少しのことでは動じない心を養えますし、社会に出たときにストレスをはねのけることもできるのではないのでしょうか。それに人間は簡単に倒れてしまうもので、ちょっとしたことで痛いということもわかります。それを体で理解すれば、他人を平気で傷つけることもないのではないのでしょうか」と力説します。

【巻頭特集】

自分を見つめ他人を思いやる 空手の真髄とは

国内外で広く親しまれている空手。誰も知っているでしょうが、経験したことがないと「怖い」というイメージも持たれがち。でも実際は、心技体を鍛えながら生涯打ち込むことができる武道なのです。今回は、そんな空手の奥深い世界をのぞいてみました。

体を鍛えて心を磨く 温故知新の精神で

「暴力と武力は、そこに『心の制御』があるかどうかで明確に違います。自分の力に対して誇りを持ち、体を鍛えながら心を鍛えるもの。空手は他のスポーツに比べて精神性が強い、日本独特の習い事の「つだ」と思っています。そう話してくれたのは、日本武道空手教育攻究会文武錬成館の大久保東代表です。自身は松本市内にある道場の2代目で、「文武不岐」という哲学のもと学習塾経営なども手がけています。子ども健全育成や社会貢献などを掲げて4年前、任意団体から一般社団法人となりました。

団体に掲げられている「攻究」は、研究すること。実際に練習は、最初の30分で基礎を消化してから子どもたちと一緒に内容を考えるのだそうです。「一方通行にならないようにしています」と大久保代表。広い道場には伝統的な空手の練習具に加え、ラダーやウオーターバッグ、バトルロープなど新しい器具も導入されています。

見慣れない形状をした道具を駆使する古伝の練習法から、最新の機器を活用したスタイルまでさまざま。大久保代表は「昔と今を経験して歴史を学んで見識を広げ、それを将来に生かしてもらいたいですね」と期待を寄せます。

頑張っているみんなに話を聞きました!!



米山 穂乃香さん
《7歳》

空手はまだ始めたばかりですが、とても楽しいです!男の子に負けずに一生懸命練習しています。



浅井 仁さん
《15歳》

稽古は楽しく心身ともにも鍛えられます。高校に進学してからも道場には通い続けて鍛え続けたいです。



堀 大希さん
《10歳》

始めて2年くらいになります。道場でできた友だちと一緒に稽古を受けることが楽しみです!